

第2回国史跡龍岡城跡保存管理計画策定委員会 会議録

日 時 平成24年5月21日（月）
午後1時30分から3時45分
場 所 あいとぴあ臼田 多目的室3・4
国史跡 龍岡城跡

出欠状況

出席委員 6名
欠席委員 2名

傍聴者 なし

委嘱書の交付

上原茂雄委員 土屋勝二委員

1 開会

2 あいさつ

教育長
会 長

3 自己紹介

4 協議 （質疑、意見等要約）

（1）国史跡龍岡城跡保存管理計画の策定について

事務局：資料により説明

今年度作成する保存管理計画書について、現在考えている内容について説明。

第1章の「沿革と目的」はこの委員会によって進んでいる保存管理計画の内容について記載したい。

第2章・第3章には、昨年度から調査をしている内容を記載していく。

第2章の現況は、調査における龍岡城の概要を記載する。

第3章の「保存管理の基本方針」については、次回内容についてお示ししたい。

「史跡の構成要素」についての現在の構想・・・龍岡城の内側の5角形の部分を内郭、外側の外回りの部分を外郭と便宜上させてもらう。

内郭の「史跡を構成する要素」として、土塁・堀・石垣などの遺構、また、「史跡に

関連しない要素」として学校や学校関連の石碑・神社などについて記述する。

外郭の「史跡に関連する要素」として、外郭の構築物として残っている2か所と昭和8年の史跡指定時の石碑が散在して残っているものを入れる。

外郭よりさらに外側を「史跡周辺地域」とし、龍岡城に関連するその他たくさんの要素について記述する。

史跡案内看板については、龍岡城跡に近いものから記述する。

「保存管理上の問題と課題」「保存管理・維持管理の方法」については、次回問題点を整理したうえでお示ししたい。

第4章は、整備と活用の基本方針についてしっかりとした基本方針を決定していきたい。整備計画の策定や他の整備計画の整合性を図っていく。

今後の保存整備・管理予定（案）について説明

今後の保存整備・管理の予定について平成35年度までの計画を示した。直近ではまず、3次元測量、また、石垣ひとつひとつの石垣電子カルテの作成を行いたい。

石垣の修理箇所については平面図で確認。「であいの館」の前及び体育館南側の石垣部分は根石から石垣が外れてしまっており崩壊寸前の状態のため、先行して修理を行っていききたい。

黒門・大手門・通用門は、土塁の登り下りの部分が崩れてきているため、応急的に補修をしていきたい。

石垣と土塁の修理については、土塁・石垣の整備委員会を設置し、その中でご意見を伺いながら事業を実施していきたいと考えている。

以上のような資料・情報を盛り込みながら「保存管理計画書」を作成していきたい。

(質疑・意見)

ワザンバー：平成23年度の事業報告の目次とだいぶ変更があるようだが、今年度作成する保存管理計画書は資料説明の内容で作成するということか。

事務局：委員の皆様にご承認いただければこの内容で進めていきたいと考えている。

ワザンバー：以前文化庁から紹介いただいた他市の保存管理計画書を参考にして作ったものか。

事務局：龍岡城は建てられてから取り壊しになるまでの期間が非常に短く、史跡として指定されてからの期間の方がずっと長いので、参考となりそうな他市の史跡の保存管理計画書を参考とした。第3章の「構成要素」は他市の史跡では当てはまらないため、新しく作成した。今年度行う業務の内容も取り込みながら行

っていきたい。

ワグナー：表題案は「史跡龍岡城五稜郭」となっているが、正式な名称には「五稜郭」はない。五稜郭を正式表題として付けても良いのかどうか、また、第3章中の「史跡の構成要素」をこのような表現や分類が良いかどうか、文化庁の方でも考え方がある。文化庁にも最終的な確認をとった方が良いのではないか。

事務局：地元の方には「龍岡城五稜郭」の呼び名が広く認知されているので、サブタイトルで「五稜郭」を付けるなど、表題や構成内容などについて文化庁の指導もいただきながら決めていきたい。

委員：図面の右上の小路の部分が枳形の一部であるということである。計画の中でこの古い枳形について位置付けができるか。

またあいの館前の石垣箇所の上には土塁があるが、もともとあったものではなく後で作られたものとのことなので、その位置付けも必要ではないか。

図面の下、雨川側の内側の丸くなっている石垣は後で作られたものではないかという話があるが、石垣が造られた当時の図面では丸い石垣が描かれているので、この図面のとおりで良いのではないか。

龍岡城を説明するとき、もともとは陣屋として建てられたものであるが城の形をしているということで「龍岡城」として説明している経過がある。この陣屋が建てられる前に、東に旧陣屋があり、当時の組屋敷の一部が残っている。その保存について考えられるかどうか。

事務局：石垣や土塁の確認や修理に関しては、土塁・石垣整備に関する小委員会を設置し、その中で方向性を決めていただき、それに基づき行っていきたい。

龍岡城の旧武家屋敷に関しては、現在取り壊されたものもある。その部分については、龍岡城の周辺整備で「歴史の里整備計画」のなかで“龍岡城に関連するもの”として整備の対象となっていく予定である。

その他にも整備の対象となる細かいものがあるので、次回までに精査してお示ししたい。

委員：龍岡の地名の由来や年代は解るか。

事務局：明治頃の資料には「立岡」の記述の部分があるが、江戸時代から使われていたかどうかは不明である。文書等にも記述がないので、実証は難しいかと思う。

また、平成28年度頃から龍岡城関係の資料を蒐集して資料集を作りたいと考えている。

委員 : 堀の外郭に藩士の住居があったが、最近取り壊しとなってしまった組屋敷があった。非常に貴重だと思うが、調査はできているのか。

事務局 : 平成23年度の調査報告書の中に参考資料として図面を載せてある。武家屋敷に関しては取り壊しの情報を得たので、宮本会長と調査を行い、測量調査及び写真も撮影してある。発見された図面とも一致しているため、これらをもとに復元も可能かと思う。

このほか、何か問題点・疑問点があれば事務局に連絡をしてほしい。

(2) その他

事務局 : 次回の開催については、7月下旬に開催する予定である。早急に連絡をするのでよろしく願いたい。

現地視察 現在の国史跡 龍岡城跡の現況を確認。
(参加者 13名)

午後3時45分終了